

報告タイトル

ポスト小康時代における障害者の就業政策
～融合を推し進める支持性就業への注目

Employment Policy for Persons with Disabilities in the Post-Moderately Prosperous Era
: Focusing on Supported Employment for Inclusive Integration

氏名(所属)

真殿 仁美(城西大学)

要旨(800字程度)

“ポスト小康”(「後小康」)時代と称されるこんにち、共同富裕を掲げ、民生を飛躍的に発展させることを目指すなか、その民生の基本として位置づけられているのが就業である。しかしその就業は、構造的な問題を抱えている。障害者の就業においては、就業形式の多様化が図られ、補助性就業やフレキシブル就業に加え、支持性就業にも期待が集まっている。

支持性就業は、競争性の労働力市場において、ジョブコーチの伴走を通して、一般の労働者と同等の仕事や報酬を受け取る就業形式を指す。支持性就業は「融合」の実現を可能にすることや、障害者の生活を転換することができる、として期待が寄せられている。報告者は、補助性就業の有する強みを活用することで、支持性就業へとつなげていくことも可能になるのでは、と考えている。ただ、中国における支持性就業はまだ議論を熟していない段階で、この先の議論の行方を注視する必要があることもわかってきた。同時に、障害者の就業において、依然として差別や偏見が根強く、“全面的な小康社会を完成させるにおいて、障害者は誰一人として取り残されるべきではない”とするスローガンとは異なり、障害者が取り残されている現状も浮かび上がってきた。

構造的な矛盾を抱える就業において、特に障害者の就業は課題が多い。支持性就業による「融合」を通じて、これら多くの障害者就業に見られる課題が改善されるのか、見極める必要があるだろう。